



**第15回「湖医会賞」受賞記念講演・「湖医会」総会**  
**10月29日(土) 13:00～ 滋賀医科大学基礎実習棟B講義室**

## CONTENTS

湖医会賞を受賞して	植松潤治・仲川孝彦	2
私の仕事場	中川晋一・中村琢弥	6
地域の病院に想う	河端秀明	10
開業苦労ばなし	近藤浩之・小熊哲也・田崎和仁	11
海外からのメッセージ	倉橋幸也	14
教授就任あいさつ	仲川孝彦	16
同期会 10年会	龍神 慶・山原真子	17
浜松医科大学交流会	渡邊龍人・吉田耕輔・松下 詢・森口玄渡	18
訃報		22
事務局から	総会の案内 ほか	22

## 第15回湖医会賞を受賞して

# 障害のある方への医療について 「障害児者医療は全人的医療の根源である」



社会福祉法人 滋賀県障害児協会  
「湖北グリープクリニック」院長  
植松 潤治 (医9期生)

この度は、湖医会賞を賜りありがとうございます。私の滋賀医大卒業証書は777番で、「おっ!!きっとこの先良い事があるに違いない」と感じたことが実現したような気がいたします。これまで、島田名誉教授をはじめ多くの先生方、同窓生の皆様の教え、お力添えをいただいてまいりました事、改めて感謝申し上げます。

ポリクリに入る頃長男が重症仮死で生まれたこともあり、小児神経学を専攻しました。医師になった頃、「障害児小児科学」という分野に触れ(少なくとも私の学生時には教科書にはなかったもの)、「発達小児科学」「診断と治療」「障害児のケア」を小児神経学の三本の柱と教わりました。また、「診断と治療」を第一の医学とすれば、「保健・予防医学」が第二、「(リ)ハビリテーション医学」が第三、そして第四の医学を「心身障害児者の医学」とする考えに感銘を受けました。以後、自分の専門は小児神経学であり第一、第二は無論の事、第三・第四医学を実践してきました。

障害者支援施設の併設診療所として平成9年「湖北グリープクリニック」平成15年「かいつぶり診療所」を開設し現在に至ります。湖医会会員の皆様は障害者支援施設なるものをご存知でしょうか。成人で重度身体障害があり、在宅介護が困難な方の生活施設です。介護保険で言う、特別養護老人ホームに相当します。私が勤める「湖北タウンホーム」はもう少し医療体制を強化したいという障害児父母の会の求めもあり、診療所が併設されました(全国で二つ目の事です)。障害者の地域交流の一環に診療所が役立つように、一般地域医療も行っています。



湖北タウンホーム(湖北グリープクリニック)



湖南ホームタウン(かいつぶり診療所)

診療所には重症心身障害児やALSのような神経難病者や若年性脳梗塞後遺症の方も来られます。成人の脳性麻痺の方は二次障害とされる頸椎症で苦しんでおられ、小児期のリハビリで予防できなかったものかと、小児神経科医としても改めて考えさせられます。一般外来では、予防接種から糖尿病・高血圧管理までさせていただき、毎日が勉強させられる事ばかりです。

今の私の最も大きな課題は、①障害のある方の二次障害対応②小児在宅医療整備です。①は上述しましたように、日々の診療で悪戦苦闘している課題です。頸椎症はもちろんのこと、自律神経のアンバランスも高じて血圧の変動があったり、嚥下障害が進行されたりと、原障害に関わらない様々な症状が全身に生じてまいります。「医療は全人的」であるべきと日頃から思っていますが、まさしくこの人たちの抱える疾病・症状・障害は「全人的なもの」、そのものです。おまけに、二次障害はこの方たちにとっては、初めて襲う一次障害のような衝撃があり、精神的なダメージも相当生じてきます。健常者が初めて障害を被った精神的ダメージそのものです。うつ症状から自殺企図に至ることもあります。また、小児科医にとって最大の難敵は、悪性腫瘍の早期対応です。こうなると私一人では手に負えません。最近では、厚顔無恥のごとく、総合病院専門医にお伺いすることが多くなっています。②に関しては喫緊の課題です。障害者権利条約にも謳われている、住み慣れた町で安心して生活が保障されるために、重度障害児者には医療体制の充実が必須です。残念ながら、滋

賀県はじめ全国でも有効な体制整備が為されていません。産科・新生児医療の進展もある中、残念ながら後遺障害を被った子どもたちが、NICUを経てその後も地域で育つ環境が充分ではありません。この整備には、小児科医だけでは対応できない事は既に証明されています。内科医・整形外科医・耳鼻咽喉科医等あらゆる専門医療が関わる必要があります。そのためには、障害児医療教育(医大等教育機関)・医師会・福祉関係者・行政が一同に同じテーブルにつき検討していかなければなりません。ようやく滋賀県でも小児在宅療育支援事業が立ち上がりました。湖医会会員の皆様のご協力を切に願っております。



図1 小児在宅療育支援事業

最後に、私が診療しております「湖北グリープクリニック」「かいつぶり診療所」では、私達と一緒に診療に携わっていただける医師を求めています。「障害児小児科学」「全人的医療」にご関心のある方は、是非一緒に研鑽をして行きましょう。



年に一度のお楽しみ(障害児療育キャンプ)

**第15回湖医会賞を受賞して**

# 尿酸と果糖



奈良県立医科大学 産学官連携推進センター  
研究教授

仲川 孝彦 (医10期生)

この度は、栄えある第15回湖医会賞を授与いただき誠にありがとうございます。滋賀医科大学卒業生として大変光栄に存じます。また今回の推薦人である同級生の高瀬年人先生と長井正樹先生ならびに選考委員の諸先生方に心より御礼申し上げます。ここでは、今回の受賞のもととなった研究内容を紹介させていただきます。

## 尿酸が血圧を上昇させる

尿酸といえば痛風を思い浮かべる方が多いと思います。痛風は高尿酸血症のために関節内部に尿酸結晶が生じる疾患であり、その風が吹いただけでも痛みが走るということで痛風という名前が付けられたようです。しかしながら、この疾患は尿酸由来の結晶が関節内で炎症を引き起こす事その原因であり、尿酸自体の働きとは直接的には無関係の病態です。では、尿酸そのものの作用とは何であろう?そもそもの尿酸自体は長い間、単なる代謝産物であると考えられ、なんら生物学的活性を持たないものとされていました。その一方で腎機能障害の際には、また高尿酸血症は、腎機能障害や高血圧などに合併していることが多く、そのため尿酸はそれらの疾患の単なるマーカーであると信じられていました。したがって、尿酸とは心血管病変や腎臓障害で上昇してくるものであるが、それ自体には何の病的作用もないという考え方が一般的なものであったと言えるでしょう。我々の研究はその既成概念に挑戦するものであり、尿酸は単なるマーカーではなく病気の発症・進展に関与するのではないかということを証明しようとしたものでした。

尿酸研究のために作成されたモデルは、正常のラットに対して薬剤誘導性に高尿酸血症を発症させるというシンプルなものでした。興味深いことに、このラットは高血圧・腎病変・血管障害を発症したのです。また尿酸降下剤にて血清尿酸値を低下させるとそれらの病変の発症が抑制されました。つまり、尿酸自体がこれらの病態の原因と成り得ることが明らかとなったのです。しかしながら、その当時、これらの研究は既存の概念に挑戦するものであったために、世間からはなかなか信用してもらえず、苦しい時期を過ごしたことを覚えています。しかし、その後、

多くの研究室から尿酸の研究が発表され、今では尿酸はインスリン抵抗性、脂肪肝、脂肪細胞由来の炎症などにも関与することが明らかとなっています。

### 果糖が尿酸に関与している

近年、我々の血清尿酸値は増加の一途をたどっています。なぜ、このようなことが起こっているのでしょうか？我々は、その原因として果糖に注目しました。果糖はご存知の通り果物や蜂蜜に含まれている甘味成分です。果糖はブドウ糖に比し甘味が強く、また生産コストが低いなどの利点が多いために、近年ではかなり多くの食物に含まれています。果糖が使用されている食品の代表的な物はソフトドリンクやスイーツなどですが、実は容易には想像もつかないようなもの、例えばケチャップやソーセージあるいは素麺の汁などにも使用されています。食品成分ラベルではブドウ糖果糖液や果糖ブドウ糖液などと表示されており、気がつかれている方も多いかもかもしれません。この果糖は体内に入ると代謝を受け、その結果尿酸が産生されるのです。つまり、多くの食品に含まれている果糖を摂取していることが、健常人での尿酸値上昇を招いていると考えました。

次に果糖由来の尿酸が身体にどのような影響を与えているのかということを知るために、我々は果糖をラットに投与し、その代謝副産物である尿酸の影響を検討しました。果糖により生じた高血圧、インスリン抵抗性、高

中性脂肪血症などが発症しましたが、興味深いことに、尿酸産生抑制剤であるキサンチンオキシダーゼ阻害剤を併用すると、それらの発症が部分的に抑制されるという結果が得られました。したがって果糖摂取により様々な代謝異常は、その代謝過程で産生される尿酸により引き起こされている事が明らかとなりました。

最近、アメリカにおいて果糖の使用が近年、社会的問題化されるようになってきています。例えばボストンの公共施設では、果糖入りの飲料の販売が禁止され、またアメリカ政府は公的学校の自販機からソーダを取り除くことを提唱し始めています。また、我々の研究は日本においても注目されており、例えば「NHKためしてガッテン」への出演や新聞記事などで、その研究成果が紹介されました。果糖は元来自然界に存在する成分なので安全だと思われがちですが、その過剰摂取により健康被害が起こります。果糖や尿酸に着目することで健康被害が軽減できるのかもしれない。

### 最後に

この研究は、12年間に及ぶアメリカ留学時代に行ったものです。今回の受賞は、ボスであるRichard Johnson教授、そして海外から集まった国際色豊かな心優しい仲間たち、そしてまた私自身の家族の支えがあったことだと思っています。皆様には心より感謝したいと思います。ありがとうございました



## 私の仕事場

ちょっと変わった研究所と  
出版について

情報通信医学研究所 代表理事・所長

中川 晋一

(医8期生)

うちの研究所(RinCOM:情報通信医学研究所)は、かなりユニークな研究所です。法人格も持っていますし、常勤研究者も居ますし、郵便だって届くし、電話も通じます。ホームページ(<http://http://ngi-lab.sakura.ne.jp/>)もあります。ゴルフ部も写真部だってあります。

ちょっと変わっているのは、全ての研究所での会話や情報共有がFaceBookを介して行われることです。ですから、リアルタイムの会議がありません。所員が顔を合わせるのは年に2、3回位でしょうか。

この研究所は、私(8期生、東京都在住、産業医)、八尾武憲(20期生、京都岡本記念病院循環器科医長)、衣笠愛子(18期生、東京都在住、精神科)、坂口正芳(18期生、大阪府豊中市、坂口クリニック院長)らのコンピュータクラブ OBがFaceBookで再会したことに端を発します。



さすらいのカテ師をめざした八尾先生、3児の母の衣笠先生、ロースクール進学準備中だった坂口先生と、国立研究所の上席研究員を終え研究に一段落つけて医療機関に移った私という、何となく研究者として所属する研究所も必要だと感じていたメンバー、FaceBook上にいた中川の通信関係の友人知人で賛同してくださった方を加えて2011年に設立しました。

原則は、「研究所は研究の場であって研究費を持ち込むことは許すが、自分の食い扶持は自分で稼げ。」です。医師たちは普通に常勤医師として勤務したり、開業医として診療したり、週何枠かのアルバイトで稼ぐ人もいます。私も東京都下のIT企業で専属産業医として勤務しています。

関東は医療職の人材流動性が高く、歴史のある大学病院でもかなり医局崩壊の状態となつていともききます。インターネットの医師登録サービス(あっせん業)を介して勤務先を見つけることが一般的になってきており、常勤先にしろ、条件の良い非常勤先にしろ労働条件が悪化すれば「辞める」、労働条件が良ければ「移る」がはつきりしてきています。私自身も6年前に情報通信研究機構を退職し産業医のポストを探すときには医師登録サービスを利

(1)

用しました。これで家族を養うことはできます。研究者として活動する場合、所属を変えるのは面倒な上に文献検索などでも不利です。

駅近の部屋を借り、研究所を登記し、私のポケットマネーで地面代と光熱費を支払うところから始めました。Webページも作り、メールアドレスも作ってしばらく無収入から。すると、某IT企業から私に医療用端末の開発をしているが意見を聞かせてほしいと。その後このプロジェクトは医療用アンプルのバーコードを読み取り、病棟などでのデータ入力に役立つ「メディレジ」という商品開発につながり、コンサルテーション収入を得ることができました。

今、この研究所には文系学部で博士を取得した研究者、NTTを退職し悠々自適にゴルフと合唱を楽しんでいたところFaceBookで中川に見つかり理事にされてしまった自由人、公認会計士の資格でブイブイ言わせている方も。みんな他に収入があったうえでRinCOMに参加し研究プロジェクトに属して研究しています。研究所の運営費は都内の企業からのコンサルテーション収入などが主です。まだまだ法人税は取られそうにありません。

昨年夏、ひょんなことからわれらが研究所に、都内の出版社から本を出しませんかと御提案いただきました。IT技術者の健康問題を考える指針になるような固くない教科書的な内容というのが要望でした。無駄な会議は一切なし。編集会議も勿論FaceBookで。7月目次案作成、9月に一回目の編集会議を開催して12月末、第1回締め切り…、2月後半に第2回編集会議となり原稿がそろい、おか

げさまで6月30日刊行となりました。

現在の我々の目標は黒字化です。黒字化できれば科研費受け入れ機関となる条件を満たすことができるからです。研究を続けていくために、一つ一つ肩寄せあい、助け合ってクリアしていこうと思っています。どうぞよろしくをお願いします。



著者のみなさんと

## 私の仕事場

# 多職種協働学習会 ～ぼちぼちねっと竜王～の実践



弓削メディカルクリニック滋賀家庭医療学センター

中村 琢弥

(医27期生)

滋賀医科大学27期生の中村琢弥です。7年の他府県の研修を経て、2年前にようやく滋賀県に戻りました。このたびこちらで筆をとらせていただくこと、とても光栄に思います。

さて、私は大学卒業後、当時日本ではまだまだ選ぶ人の少なかった「家庭医療学」の修行を積むために、京都や北海道を中心とした研修を積んでおりました。2014年4月よりようやく滋賀県に戻ったわけですが、故郷でもある滋賀県に戻ってからは現在の所属である弓削メディカルクリニック滋賀家庭医療学センターにて、教育担当指導医として新たなキャリアを開始しました。

この弓削メディカルクリニックは滋賀県蒲生郡竜王町に位置し、いわゆる「日本の田舎」の医療を守るような、私立の無床診療所になります。しかし、ここは一般によくあるようなただの診療所ではありません。第1に、無床診療所にもかかわらず、従業員数70人近くが多職種が勤める「マンモス診療所」であること、第2に、創業から15年以上もの永く渡って、地域医療教育の最前線に立ち続けてきた日





(2)

本有数の「教育診療所」でもあること、それらが大きな特徴となっております。この地では、私がこれまで培ってきた家庭医療学の知識や医学教育の技術などを存分に発揮できる舞台にあふれており、やりがいのある毎日をすごしております。中でも特に地域医療教育に寄与し続けている活動の一つに「多職種協働の定期学習会（ぼちぼちねっと竜王）」があります。

「ぼちぼちねっと竜王」は2～3ヶ月に1度、地域の多職種（医師だけでなく、看護師、介護士、ケアマネジャー、リハビリスタッフ、事業所経営者、行政担当者など多数）が集って、学習会や事例検討会を行う場です。IPE(Interprofessional Education: 多職種協働教育の意)の概念に基づいて、多職種の相互理解を進めながら、より発展的な関係を目指し、高次の連携・対応が出来るような様々な企画を展開しております。私自身も実行委員のメンバーとして、日々学習会の企画運営を行い、多くの多職種が参加しては楽しく学ばれている様子にうれしさを感じています。実際に、参加者が「顔の見える関係」と

なって、日々の業務における円滑さにつながることも多々経験され、その影響力の大きさを実感しています。

多数の学習者や見学者が訪れる私たちの診療所ですが、ぜひこのような地域の学習会も多くの人の目に触れてほしいと思います。きっとそこに日本の医療・福祉・介護をさらによくするヒントがあるものと信じています。



## 地域の病院に想う



京都岡本記念病院  
消化器内科部長・内視鏡センター長

河端 秀明

(医16期生)



『久御山町』一響きの良い素敵な町名という印象は持ちながらも、卒後京都に移り住んで20年間は京都の南にある未知の世界でした。岩倉の山奥と市内の第二赤十字病院を往復していただけの私が、木津川のほとりにそびえ立つ新病院から毎日久御山の街並みを眺めることになろうとは、その時には知る由もありませんでした。山城盆地の中央に位置しているの



ので、窓外には壮大なパノラマが広がっています。緩やかなカーブ

を描く木津川の流れと新緑に覆われた小高い土手をぼんやりと眺めるのが今のお気に入りです。時代劇のロケ地として有名な『流れ橋』や府の景観資産である浜茶畑も一望でき、疲れを癒してくれます。

北に目を向けると高速道路や工場のはるか向こうに巨椋池干拓地と呼ばれる広大な田園風景が見渡せます。昭和の初めまで宇治川、木津川、桂川が合流する巨大な遊水池が存在していたとはにわかに信じ難いですが、漁師が小舟を操り、水鳥が飛び交い、水面に紅白の蓮の花が浮かぶ姿を思い浮かべるだけで、なんともいえぬ胸

の高鳴りを覚えます。住民たちはこの豊かな水の恵みを享受する一方で、常に水と戦ってきました。最近は大規模なダム建設や河川改修など治水事業のおかげで落ち着いていますが、幾度となく洪水による被害を経験し、今もその危険に晒されています。そのため当院は府の災害拠点病院(地域災害医療センター)の指定を受け、災害派遣医療チーム(DMAT)が訓練を重ね、ヘリポートや備蓄倉庫も整備されています。

ようやく病院の中に視点が移ってきましたので、もう少し当院の紹介をしておきましょう。新病院移転に伴い医師をはじめ病院スタッフが大幅に増員され、消化器内科も専門医4人を含む6人体制となりました。また内視鏡センターの拡張にあたり、専属スタッフの補充、最新の内視鏡機器の導入が実現し、より手厚く専門的な診療を行えるようになりました。質の高い内視鏡診断・治療の提供とともに、病気だけでなく人を診る医療を実践し、この久御山で信頼される組織になることが当面の目標です。

滋賀医大との関連も深く、各診療科で数多くの同窓生が活躍されていますので、興味をお持ちの方はお気軽にご連絡ください。興味のない方もぜひ一度この絶景を見にいらしてください。





第二近藤診療所 院長

近藤 浩之 (医10期生)

# 開業 苦労 ばなし

①

## 近況報告

平成2年卒業(10期生)の近藤です。滋賀医大第一外科に入局研修後、茨木市で診療所を開業し、はや12年が経過しました。思いもよらぬ開業だったため不手際が多く、診療のみならず、薬剤管理や事務仕事、人事管理と一人何役もこなさねばならず、随分と大変だったことが思い出されます。何より、大学勤務時代は、診断後の治療が主でありましたが、開業後は、生活習慣病の指導、投薬加療を中心に整形外科、眼科、小児科、心療内科の初期診断加療といった、全く治療経験のない診療に携わらなければならず、ストレスを多く抱えておりました。

困った症例に対し、大学の同期にわざわざ休日に来て頂き、食事と引き換えに色々アドバイス頂き助けてもらいました。同期のみならず、滋賀医大の同門が近くにいる事は我々開業医には非常に心強いものです。大阪にはすでに200名を越える卒業生が活躍していると聞いております。結束を強めるべく1期仲谷先生、2期江口先生を中心に琵琶湖カンファレンスin大阪(湖医会大阪支部)の世話人として年1度の研究会、懇親会を開いております。多くの卒業生に集まって頂き会を盛り上げたいと思っております。是非参加して頂くようお願いいたします。

現況ですが、ようやく開業医生活にも慣れてきて、趣味の時間を持てるようになりました。大学では夏はボート部、冬は柔道部で体を動かしていましたが、卒後はめっきり体を動かす機会が減り、メタボ街道まっしぐらの状況でした。このままではいかんと思い立ち、茨木医師会のテニス部、水泳部に参加、新たに開業医仲間を誘ってバドミントン部、自転車部、卓球部を立ち上げ、月1度のクラブ活動を行っています。天気が良ければ淀川でカヌー(シーカヤック)にも乗っております。

家庭菜園にもはまってしまい、通常野菜はもとより、特に、ベリー系のフルーツに凝っており、この時季ブルーベリー(40種類)がたわわに実っております。日々の診療に加え、畑の水撒き、愛犬(柴犬、ミニチュアダックス)の散歩でいくら時間があっても足りない状況です。

趣味はともかく、今年度からは茨木市医師会で、救急災害医療・保健事業・健康教育担当理事を拝命し、開業医として地域に根ざした信頼される医師をめざすと共に、微力ですが、滋賀医科大学の名を知らしめるべく、ますます頑張っていく所存でございます。

今後ともよろしくお願いたします。





おぐまファミリークリニック 院長  
 小熊 哲也 (医17期生)

# 開業 苦勞 ②

## ばなし

おぐまファミリークリニックです。  
 よろしくお願ひします。



う事が出来ました。これは全国的にもかなり珍しい事で、ひとえに滋賀県での一体感があってのことだと思います。実際、ここだけの話ですが他県ではケンカする人がいてなかなか一緒にはうまく行かないものです(笑)。お陰様で吸入療法連

携の全国組織であるNPO法人「吸入療法のステップアップをめざす会」の理事もさせていただくようになりました。中野教授に「報告だけはしてくれたら好きにやってください。」と言っていたのをいいことにあちこちへ毎週出かけて行き、とても楽しい活動をさせていただきました。講演や市民イベントを通じて微力ながら喘息の患者さんに貢献できたのではないかと考えております。今後は開業医の立場から活動を拡げていけたらと考えています。

さて、話はがらりと変わりまして。私は滋賀医大生時代ワンダーフォーゲル部に所属しておりました。昨年後輩から高校総体が滋賀県でやるから付添ドクターをやってもらえないか?というオファーがありまして。高島トレイル(ひとつのコースで琵琶湖と日本海の両方が見えます!)を高校生に混じってAEDを担いで登るという貴重な体験をさせていただきました。せっかくなので今年も登る予定です。滋賀県は琵琶湖だけではなく、周囲に魅力的な山々がたくさんありますのでこちらも今後活動を拡げてゆけたらと思っています。良かったらFacebookやブログでまた活動を見てってください。



高島トレイル:日本海側、福井県が見えています



高島トレイル:びわ湖側、竹生島が見えます

2016年5月に南草津で開業しましたおぐまファミリークリニックの小熊哲也です。学生の頃は辻哲也で、結婚して姓が変わりましたのでわからない方も多いかもかもしれません。

私の専門は呼吸器内科+アレルギー科、つまり喘息です。私が卒業した平成9年には滋賀医科大学にはまだ呼吸器内科がありませんでした。卒業後名古屋大学の関連病院である愛知厚生連加茂病院(現・豊田厚生病院)で研修をうけ、呼吸器内科の魅力に目覚めました。その後多くの先生方の指導に恵まれ2012年に滋賀医大へ戻ってまいりました。

ちょうど同じ時期に喘息が専門の山口将史先生が赴任され、滋賀県でも喘息死ゼロをめざそう!と何か活動できないかと模索していたところ、滋賀吸入療法連携フォーラム(SKRF)という吸入療法を広める研究会をまかせていただきました。滋賀県薬剤師会と滋賀県病院薬剤師会、滋賀医大と地域基幹病院の呼吸器内科医師の協力もあって、それまで基幹病院の医療圏くらいでしか行われていなかった吸入療法勉強会を滋賀県全域で行



なごみ内科クリニック 院長

田崎 和仁 (医17期生)

開業 苦勞  
ばなし

③

## 苦痛の少ない内視鏡検査の提供を目指して

平成26年12月に、湖南省岩根の「イオンタウン湖南」内に「なごみ内科クリニック」を開院いたしました、医学科17期生の田崎和仁と申します。

私は滋賀医大の第二内科(現消化器血液内科)に入局後、滋賀医大附属病院で医師としての研修を開始し、草津総合病院と公立甲賀病院で勤務をしまし

た。いずれもかなり忙しい日々でしたが、専門である消化器内科領域については内視鏡はもちろん緩和ケアやがん化学療法などを、一般内科領域についても多くの貴重な経験を積むことができました。また他の医師から教わったことやメディカルスタッフとの意見交換などを通して得たことも、開業した今の診療に非常に役立っていると感じております。

このまま勤務医として専門を極める道もありましたが、医師を志した当初から念願であった開業医の道へ進むことを、数年前から徐々に考え出しました。しかしどこからどう動いたら良いかが全くわかりませんでしたので、身近で開業をしたばかりの先輩医師に、まず開業支援のコンサルタントを紹介してもらいました。そこでイオンタウン湖南オープンに合わせたクリニックの開設話があり、条件や開院時期で悩みましたが、最終的には長年働いた地域の方々に貢献できると考え決意をしました。

後はコンサルタントにより、建築会社、医療機器メーカー、広告会社、税理士など必要な業種の全てを紹介してもらえます。しかし全ての業種に、先輩や同級生の開業医、知人などに依頼し敢えて別の候補を探しました。それは初めてのことばかりで知識がなく、相場がわからなかったためです。そしてそのどちらが良いかを、それぞれ比較判断してから選ぶようにしました。手間と時間はかかりましたが、比較をすることで同じ業種でも結構考え方



や条件に違いがありました。特に設計やデザインに関してはその差が大きく、このようにして良かったと思っています。また色々と教えていただいた先輩や同級生には大変感謝しています。

開院してから日々の診療で感じることは、内視鏡検査に対して「非常に苦しい・怖い」などのマイナスイメージを持たれている方が多い

ということです。胃がんのリスクであるピロリ胃炎の診断や、大腸がんのリスクである大腸ポリープの発見・切除に内視鏡検査は必須です。内視鏡検査は見落としをしないことももちろん重要ですが、「今後二度と受けたくない」と思わせないために、苦痛の少ない検査を提供することが最も重要であると考えています。

なるべく苦痛の少ない内視鏡検査を提供するべく、胃カメラは最新で高画質の細径内視鏡を用い経鼻で検査を施行しています。(希望により経口でもできます。)大腸カメラは、痛みの原因である内視鏡による腸管の過伸展をしない挿入を心掛け、検査時の送気による腹部膨満感を緩和するため体内への吸収が早い炭酸ガスを使用しています。鎮静剤や鎮痛剤に関しては、安全性を重視し初回から積極的には使用をしておりませんが、苦痛が強かった方には次回より使用を考慮する方針にしています。

とは言え特に初めて受けた方の中には、当院での内視鏡検査後に思っていたよりもしんどかったと言われてしまうことも残念ながらあります。内視鏡検査に対するイメージアップのため、決して現状に満足することなく日々精進を続けていきたいと考えていますので、今後ともよろしく願いいたします。



# バンコク留学記

## 東南アジアで学ぶ熱帯医学

Bangkok School of Tropical Medicine Mahidol University  
倉橋 幸也 (医29期生)

こんにちは、29期(卒後8年目)の倉橋幸也と申します。小児科医で、現在、タイにあるBangkok School of Tropical Medicine Mahidol University(マヒドン大学熱帯医学教室)のDiploma in Tropical Medicine and Hygiene (DTM&H)に在籍しております。留学の経緯とタイの生活の様子を紹介させていただきます。

熱帯医学といえば、デング熱やマラリアなどが思い浮かぶでしょうか。では実際にマラリアの診療をしたことがあるという先生方はどの程度いらっしゃるのでしょうか。(私は経験したことがありません。)地球上には感染症の恐怖にさらされている人々がまだ数多くいます。そして私たち日本人にも決して無関係な話ではありません。国際化や温暖化が進み、さらに身近な問題になってくると思われる輸入感染症や熱帯病を勉強したくてタイに来ました。

DTMHコースの日常は教室での講義が主ですが、附属病院がそばにあり、マラリアやデング熱、HIVの患者様を実際にベッドサイドでみるすることができます。また、HIVクリニック、ハンセン氏病療養所、結核病院、性病クリニック、空港検疫所の見学やタイ北西部でのフィールドワークなど学外での学びの機会も多くあります。実際に患者様の診察をしたり臨床現場を体験したりするのはとても勉強になります。

今年は、日本・ミャンマー・米国・スイス・オーストリア・メキシコ・カンボジア・バングラデシュ・ベトナムからの参加です。(年度によって様々で、去年はロシアや英国、スペインからの参加者もいました。)各国の文化のみならず医療事情も知ることができて楽しいです。総合内科・感染症内科・家庭医・小児科と内科系からの参加者が多いですが、一般外科、整形外科など外科系からの参加者もいます。ま





た、国際医療・国際保健に興味をお持ちの先生方にも有意義なネットワークを築くことができます。

日本人医師の留学先としてアジアはまだマイナーかもしれませんが、英語で医学を学ぶアジア諸国の医師のレベルの高さには驚かされます。「英語が苦手」な典型的な日本人の一人として歯がゆい思いを日々していますが、いい刺激となっています。要求される英語力や費用を考慮すると欧米への留学に比べてハードルは低いのでぜひご検討ください。

今後に関してですがDTMHは半年間で修了となり Master of clinical tropical medicine in pediatrics (熱帯小児科学修士課程)に進学し来年3月まではバンコクにいる予定です。ご質問等がございましたら「湖医会」を通じて連絡していただくと幸いです。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



## 教授就任 ごあいさつ

奈良県立医科大学 産学官連携推進センター

研究教授 仲川 孝彦 (医10期生)



### 【略歴】

- 平成2年3月  
滋賀医科大学医学部卒業
- 平成2年5月  
滋賀医科大学附属病院第3内科入局
- 平成3年10月  
大阪労災病院循環器内科 医員
- 平成6年4月  
滋賀医科大学大学院医学研究科 入学
- 平成10年3月  
滋賀医科大学大学院医学研究科 修了(医学博士)
- 平成10年4月  
滋賀医科大学附属病院第3内科 医員
- 平成10年6月  
洛和会音羽病院 腎臓内科 副部長
- 平成12年7月  
草津総合病院 医員(内科)
- 平成12年10月  
アメリカ・ベイラー医科大学 腎臓高血圧内科 リサーチフェロー
- 平成16年4月  
アメリカ・フロリダ大学 腎臓高血圧内科 リサーチフェロー
- 平成17年10月  
アメリカ・フロリダ大学 腎臓高血圧内科  
アシスタントプロフェッサー(講師)
- 平成20年7月  
アメリカ・フロリダ大学 腎臓高血圧内科  
アシリエイトプロフェッサー(准教授)
- 平成20年8月  
アメリカ・コロラド大学 腎臓高血圧内科  
アシリエイトプロフェッサー(准教授)
- 平成24年6月  
京都大学大学院医学研究科 TMKプロジェクト 特定准教授
- 平成28年4月  
奈良県立医科大学産学官連携推進センター 研究教授  
現在に至る

平成28年4月1日付で奈良県立医科大学・産学官連携推進センター研究教授に就任させていただきました。名誉ある職を与えていただきましたことで、改めて身の引き締まる思いがいたします。

これまで勤務していた京都大学での任期は3月末までだったので、次の就職先を探しましたがなかなかうまくいかず苦慮しておりました。周りの方々にもずいぶんご心配をおかけしました。そんな中、2月に入ってようやく奈良医大に着任できることが決まりました。今回の就職活動は、なかなか綱渡り的でしたが、結果的にはいろいろな意味で幸運であったと感謝しております。

これまでの人生の中で、なんとか仕事を続けてこられたのも最初に私を導いてくださいました吉川隆一先生(元滋賀医大 学長)を始めとする第3内科の諸先輩方、大学院時代に研究指導をいただいた笹原正清先生(滋賀医大1期生、現富山大学・病理学講座教授)、12年間のアメリカ留学時代の恩師Richard J Johnson先生(現University of Colorado 腎臓内科主任教授)、また同僚・先輩・後輩、そのほかこれまで在籍した病院の職員の方々、患者さんたち、等々本当に多くの方々にて育て、導いていただいたおかげです。深く感謝しています。家庭で支えてくれる妻や両親・家族にも感謝しています。

私自身は、これまで腎臓内科を経験し、そして腎臓病研究にエネルギーを注ぎました。特に生活習慣病の潜在的な原因因子としての尿酸の役割を検討し、また糖尿病性腎症を治療したいという思いで大学という場所で研究を続けてまいりました。今後は、奈良県立医大の産学官連携推進センターという部署において、これまでとは少し異なる立場で研究に携わりたいと考えています。産業界と手と手を携えて実用化しやすい研究が行える環境を整備していきたいと考えています。

これからも腎臓内科医あるいは腎臓研究者としてだけでなく、人として少しでも成長することを目指して、精進を続けていきたいと思っています。これからも一層のご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



## 同期会

25期生

卒業10年同期会を  
開催して

龍神 慶

(医25期生)



平成28年3月6日、ホテルグランヴィア京都で医学科25期生の卒業10年同期会を開催いたしました。何人ほど参加してくれるか、幹事として当日まで気をもんでおりましたが、嬉しい事に55名もの同期が集まってくれました。

近況報告では、入学当時の懐かしい面影をバックにしながらか、臨床医として活動している事や研究の道を邁進している事、家庭との両立を保っている事など、まさに十人十色の個性をみな生き生きと披露してくれました。仕事やプライベートなど話は尽きず、2時間はあっという間に過ぎてしまいましたが、話し方などふとしたそぶりに10年前の姿を垣間みる事ができ、みな良い刺激になったと言ってくれました。

次回はまた10年後、さらに大きく羽ばたき活躍しているみんなと再会できる事を原動力に、明日からの診療に邁進していきたいと思います。

最後になりましたが、様々にバックアップしていただきました「湖医会」事務局の皆様がこの場をお借りして御礼申し上げます。

卒業10年同期会に  
参加して

山原 真子

(医25期生)



卒業10年目の同期会に参加させていただきました。同期会の名物といえば、大学入学時の顔写真を前にしたスピーチです。今さらそんな写真を!と思いつつも、みんなの顔や話し方などが学生時代とさほど変わっていないことに驚きました。まるで学生時代がついこの間であったかのように。しかし、近況報告では、院長をしている人、部長の人、教育や研究に励んでいる人、子育てを頑張っている人など、10年の時の経過を感じることができました。あっという間の2時間でしたが、みんなと再会でき、いろんな話ができそこは、とても良い心の栄養補給になりました。

最後になりましたが、「幹事」ということで原稿依頼をいただきましたが、私自身ちょうど留学中であつたということもあり、幹事の仕事は何一つできておりません。幹事の龍神君はじめ、同期会開催に尽力いただいた皆様、「湖医会」事務局の皆様がこの場をお借りして御礼申し上げます。

また10年後にみんな元気でここに集まりますように。



# 浜松医科大学交流会

我々の交流戦が実りあるものになると予感させてくれるような青空が広がる5月13日、滋賀医科大学の一行は約200km離れた浜松の地へと出発した。出発前の壮行会で我々の士気は大いに高まり、浜松へ向かうそのバスの中でも興奮が冷めることはなかった。バスから降りると浜医の一行が我々を迎えてくれた。四回生ともなると懐かしい顔もたくさんあり、久しぶりの再会をしばし楽しんだ。すぐに開会式が開催され二人の素晴らしい学長からまるで聖書でも聞かせてもらっているのだろうかと思わせるような心に沁みるお言葉をいただき、私の浜医戦に対するモチベーションは更に高まった。式は浜医のMCのテンポ良い進行により和やかに終わりを告げた。

遂に浜医戦の始まりである。私が所属しているテニス部では一日目にイレギュラーによる試合が行われた。全員が輝く青春のひと時を淹れた

## 四回目の浜医戦

てのお茶のような色のコートの上で過ごした。時折吹く風が心地よかった。結果は浜医の勝利で、我々は悔しかったが戦友の勝利を祝福した。戦いの後は互いの健闘を称えながら盃を交わすものである。普段あまり酒を嗜まない私もこの日ばかりは店中の酒を飲みきるくらいの気合で浜医の皆と酒を楽しんだ。本当に楽しかった。少しばかり楽しみすぎた。二日目、楽しかった酒の反動が私を襲った。恥ずかしながらほとんど記憶がない。気づかぬうちに滋賀医は総合優勝をとげていた。今年も優勝杯を滋賀医に持ち帰ることができて本当に良かった。

最後になりましたが、浜医戦の開催にあたり尽力して下さった方々には深く感謝したいと思います。



浜松医大交流会担当

渡邊 龍人 (医学科4回生)



始球式(山田尚登副学長)



# 浜松医科大学対抗戦を終えて

水泳部主将 吉田 耕輔(医学科4回生)



5月の13日、14日に浜松医科大学との交流戦が行われました。今年は浜松医科大学が主幹であるということで部員一同、大型バスに乗り浜松へ向かいました。本交流戦の責任者が浜松医科大学水泳部主将だったこともあって私も滋賀医科大学水泳部主将として拙いながらも開会の挨拶をさせていただきました。このようなたいへん貴重な場を設けていただき、この場をお借りしてお礼申し上げます。

私たち水泳部は毎年、一日目にバーベキューを通して互いの親睦を深め二日目に大学のプールにて交流戦を行っています。今年は浜松医大のプールで交流戦を行いました。浜松医大の50m長水路プールは全国的にみても大変立派なプールであり今夏に開催されます西日本医科学学生総合体育大会にむけての絶好の予行練習の機会になりました。両大学の部員とも、日ごろのハードな練習の成果が節々で垣間見られ、両主将互いに試合ではより一層白熱した力泳を見せることを誓って今回の交流戦は幕を閉じました。私たち水泳部一同、本交流戦をきっかけにより一層、文武両道に励みたいと思います。最後になりましたが本交流戦の準備をしてくださった両大学の関係者の皆様にお礼申し上げます。



## 浜松医科大学交流会

安心してくださーい！  
浜医には勝ちましたから！！

端艇部  
松下  
詢(医学科4年生)

今年も浜松医科大学との交流戦の季節がやってきた。我が端艇部ではシーズンが始まって初めての遠征がこの大会であり、新入生に遠征のノウハウを教えたり滋賀でやってきた練習の成果を他の場所で披露したりするなど、浜医戦は我々にとって内容の濃いイベントである。結果から言うと、今年の浜医戦は男子対校・男子新人・女子新人で我々が勝利した。歴代の諸先輩方が積み上げてきた勝利数に勝ち星をまた一つ積み重ねることができ、ホッと一安心といったところである。



浜松は瀬田から東へ200kmほどのところにあり、車で2時間半かかる。レースの舞台は佐鳴湖漕艇場。浜松市内にあり浜松医科大学からアクセスが良く、レースコースもきれいに整備されている。しかし、佐鳴湖は全国の中で五指に入るほど水質汚濁が進んでいる悪名高い湖で、いつも対戦相手である浜医の面々に「滋賀医は良いよな～、あんなにきれいで広い琵琶湖で練習できて」と羨ましがられる。それはさておき、対戦相手である浜松医科大学漕艇部は去年の西医

体で初めて総合優勝し、当地の名産物うなぎのように「脂が乗った」チーム編成になると予想されたが、ふたを開けてみれば我々滋賀医大が4種目中3種目で勝利した。勝負事はやってみるまで分からないものだ。

次は西医体。今年は鳥取県米子市錦海漕艇場で開催される。こここのところ総合成績3位が続いているので、今年こそはなんとか表彰台の一番高い位置に立てるように頑張りたい。



# オケ部の浜医交流会

管弦楽団 森口 玄渡 (医学科4回生)

今年は滋賀医が浜医へ訪問する年でした。滋賀医を出発しバスに揺られること4時間、浜医に到着。そのまま食堂に移動しパートごとでお弁当をいただきました。

午後からは合同合奏の時間です。まずセクションごとに練習をし、発表となります。弦セクションは映画「ハウルの動く城」メドレーとアイネ・クライネ・ナハトムジークを合奏しました。弦の柔らかな音色に癒やされました。管セクションはグレン・ミラーメドレーとさくらのうたを合奏しました。吹奏楽の迫力満点の演奏に元気が湧いてきそうです。

続いて、滋賀医の6月定演の曲である大序曲「1812年」、そして浜医の定演の曲「眠れる森の美女」を合奏しました。曲を出した側がお互いにリードしあい、合奏は大成功に終わりました。

二日目は待ちに待った浜松観光です。オケ部はパートごとに観光を行います。各パートで、楽器博物館やうなぎパイ工場の見学、浜松名物のさわやかげんこつハンバーグに舌鼓を打ったりしつつ、浜松を満喫しました。そして楽しかった浜医との交流会は終わりの時間を迎えます。名残を惜しみつつも来年の再会を約束し、浜松を後にしました。



## 2016年度「湖医会」 総会のご案内

日時／平成28年10月29日(土) 16:00～  
場所／滋賀医科大学基礎実習棟B講義室

### 議 題

- ① 2015年度事業報告
- ② 2015年度決算
- ③ 2016年度事業計画
- ④ 2016年度予算
- ⑤ その他

## 年会費について

医学科卒業会員

**会費の割引**… 自動引き落とし(口座振替・VISAカード)のすべての利用者は、年会費6,000円が5,000円に割引となります。

**会費の免除**… 40年(40回)分を納入したとき、あるいは、満65歳に達しそれまでの会費を完納しているとき(本人からの申し出による)は、以後の会費は免除となります。

お知らせ

### 「湖医会」年会費の自動引き落とし



口座振替をご利用の方は10月12日、  
一般VISAカードの方は10月15日となります。  
なお、便利な口座引き落としの利用をご希望の方は  
事務局までご連絡ください。

名前・住所・勤務先・メールアドレス等が変更になった場合は、  
メールまたはファクスで事務局までご連絡ください。

表紙の写真：大学正門

謹んで哀悼の意を表します。

## 訃報

●平成27年8月10日 島村英治(医6期生)